

日本分子生物学会・第45回年会運営に ついてのアンケート 集計結果

ポジション別:その他

回答者数:24名

質問1.45回年會に参加されましたか

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 参加した	19	79.2%							
回答2 参加しなかった	5	20.8%							
合計	24								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問2.あなたのポジションは

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 学部学生	0	0.0%							
回答2 大学院生	0	0.0%							
回答3 ポスドク等非常勤研究者	0	0.0%							
回答4 企業研究者	0	0.0%							
回答5 大学・研究所等の常勤研究者	0	0.0%							
回答6 その他	24	100.0%							
合計	24								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問3.あなたの年齢は

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 19歳以下	0	0.0%							
回答2 20-24歳	2	8.3%							
回答3 25-29歳	2	8.3%							
回答4 30-34歳	0	0.0%							
回答5 35-39歳	1	4.2%							
回答6 40-44歳	2	8.3%							
回答7 45-49歳	3	12.5%							
回答8 50-54歳	2	8.3%							
回答9 55-59歳	2	8.3%							
回答10 60-64歳	2	8.3%							
回答11 65-69歳	3	12.5%							
回答12 70歳以上	5	20.8%							
回答13 回答しない	0	0.0%							
合計	24								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問4.所属する学会について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 日本分子生物学会	22	91.7%							
回答2 日本生物物理学会	1	4.2%							
回答3 日本生化学会	3	12.5%							
回答4 日本癌学会	4	16.7%							
回答5 日本細胞生物学会	2	8.3%							
回答6 日本発生生物学会	2	8.3%							
回答7 日本神経科学学会	1	4.2%							
回答8 日本農芸化学会	1	4.2%							
回答9 日本植物生理学会	2	8.3%							
回答10 日本免疫学会	2	8.3%							
回答11 日本遺伝学会	1	4.2%							
回答12 その他	10	41.7%							
合計	51								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問5.シンポジウムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 テーマは適切である	18	75.0%							
回答2 テーマが偏っている	1	4.2%							
回答3 (オンライン発表者も含め)海外からのシンポジストの数は適切であった	3	12.5%							
回答4 海外からのシンポジストはもっと増やしたほうがよい	1	4.2%							
回答5 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド形式での質疑は問題なく行えると感じた	0	0.0%							
回答6 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド形式での質疑に難しさを感じた	0	0.0%							
回答7 (参加者として)ハイブリッド形式での質疑は問題なく行えると感じた	7	29.2%							
回答8 (参加者として)ハイブリッド形式での質疑に難しさを感じた	2	8.3%							
回答9 特になし	4	16.7%							
回答10 その他	1	4.2%							
合計	37								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問6.ワークショップについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 テーマ・セッション数ともに適切である	13	54.2%							
回答2 テーマ・セッション数ともによくない	1	4.2%							
回答3 ワークショップの時間は135分枠と150分枠があり、全体的にちょうどよい長さだと感じた	5	20.8%							
回答4 ワークショップの時間は全体的にもっと長い方がよい	1	4.2%							
回答5 ワークショップの時間は全体的にもっと短くてよい	3	12.5%							
回答6 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド形式での質疑は問題なく行えると感じた	0	0.0%							
回答7 (オーガナイザー・発表者として)ハイブリッド形式での質疑に難しさを感じた	0	0.0%							
回答8 (参加者として)ハイブリッド形式での質疑は問題なく行えると感じた	6	25.0%							
回答9 (参加者として)ハイブリッド形式での質疑に難しさを感じた	0	0.0%							
回答10 ワークショップ企画公募で「指定演者のうち少なくとも30%程度は女性講演者とする」ことが応募条件に入っていた点については、賛同し支持する	3	12.5%							
回答11 ワークショップ企画公募で「指定演者のうち少なくとも30%程度は女性講演者とする」ことが応募条件に入っていた点について、理解はするが適切であったか疑問が残る	5	20.8%							
回答12 ワークショップ企画公募で「指定演者のうち少なくとも30%程度は女性講演者とする」ことが応募条件に入っていた点については、適切でないと思う	3	12.5%							
回答13 特になし	5	20.8%							
回答14 その他	1	4.2%							
合計	46								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問7.一般演題(ポスター発表)全般について <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%
回答1 オンサイト(幕張会場)でのポスター発表はよかった	15	62.5%						
回答2 オンサイトでのポスター発表はよくなかった	1	4.2%						
回答3 ポスターはオンサイトのみでよいと思う	5	20.8%						
回答4 ポスターはオンラインもあったほうがよいと思う	6	25.0%						
回答5 オンサイトのポスターセッションと時間帯が重複しないのであればオンラインでのポスター発表や参加を検討してもよい	4	16.7%						
回答6 ポスターセッションの時間(2時間)はちょうどよい長さだ	8	33.3%						
回答7 ポスターセッションの時間はもっと長い方がよい	5	20.8%						
回答8 ポスターセッションの時間はもっと短くてよい	3	12.5%						
回答9 (発表者として)サイエンスピッチ(ポスター発表者がポスターセッション前に行ったショートトーク)はよかった/今後の年会で機会があればやりたい	2	8.3%						
回答10 (発表者として)サイエンスピッチはよくなかった/ポスターセッションのみでよい	1	4.2%						
回答11 (参加者として)サイエンスピッチはよかった	8	33.3%						
回答12 (参加者として)サイエンスピッチはよくなかった/ポスターセッションのみでよい	2	8.3%						
回答13 特になし	5	20.8%						
回答14 その他	2	8.3%						
合計	67							

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問8. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 全体的にバランスがよかった	9	37.5%							
回答2 シンポジウム・ワークショップの時間帯で常に日本語で聞けるセッションがあったことはよかった	13	54.2%							
回答3 英語で聞けるシンポジウム・ワークショップを全日程に配置したことはよかった	4	16.7%							
回答4 英語で聞けるシンポジウム・ワークショップは1日あるいは特定の時間帯に固めて配置したほうがよかった	1	4.2%							
回答5 一般演題(ポスター発表)が午後一番の時間帯であることはよかった	11	45.8%							
回答6 一般演題(ポスター発表)が午後一番の時間帯であることに不満が残った	3	12.5%							
回答7 ワークショップの時間帯の配置(午前・夕方)はよかった	6	25.0%							
回答8 ワークショップの時間帯の配置(午前・夕方)に不満が残った	7	29.2%							
回答9 その他	4	16.7%							
合計	58								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問9. フォーラムについて <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 フォーラムはよかった	7	29.2%							
回答2 フォーラムはよくなかった	2	8.3%							
回答3 フォーラムには参加しなかった	11	45.8%							
回答4 フォーラムの時間帯・長さ(19:15~20:45、19:00~20:30の90分間)は適切であった	6	25.0%							
回答5 フォーラムの終了時刻をもっと早めてほしい	5	20.8%							
回答6 フォーラムにはオンラインで参加したので、時間帯・長さは気にならなかった	6	25.0%							
回答7 その他	3	12.5%							
合計	40								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問10.年会の発表言語について(本年会では、シンポジウム:英語、ワークショップ:オーガナイザーに一任) <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 シンポジウムには日本語のセッションも入れてほしい	9	37.5%							
回答2 シンポジウムの言語は、発表はすべて英語でも良いが、質疑に関しては適宜日本語使用を許可したり、オーガナイザーに訳や補足を入れるなどの配慮してほしい	10	41.7%							
回答3 シンポジウムの言語は、英語字幕が入るなら発表はすべて英語でも良い	5	20.8%							
回答4 シンポジウムのスライドは英語または日英併記など英語圏の参加者に配慮しつつ、発表言語は英語にこだわらず議論が充実することを優先するべき	9	37.5%							
回答5 本年会で講演セッションのスライドにライブキャプション(使用言語での字幕表示)があったことは理解の助けになりよかったと思う	6	25.0%							
回答6 本年会で講演セッションのスライドにライブキャプション(使用言語での字幕表示)があったことはあまり意味がなかったと思う	5	20.8%							
回答7 その他	3	12.5%							
合計	47								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問11.本年会では一人一演題の制限を廃止しました(ただし複数演題の投稿は可能ですが、異なる研究内容に限るものとした)。また、発表者に演題投稿時Graphical Abstractの提出をお願いしたり、講演セッションについては内容が一目で把握できるようセッション名の略称も付けていただくなど、参加者のサイエンティフィックな出会いの可能性を広げる仕掛けを試みています。その点についてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 複数演題を投稿できるのはよいと感じた	10	41.7%							
回答2 複数演題を投稿できることにあまりメリットを感じなかった	6	25.0%							
回答3 一人一演題にするべきだと思う	2	8.3%							
回答4 (発表者として)Graphical Abstractはよいと感じた	4	16.7%							
回答5 (発表者として)Graphical Abstractにあまりメリットを感じなかった	2	8.3%							
回答6 (参加者として)Graphical Abstractはよいと感じた	10	41.7%							
回答7 (参加者として)Graphical Abstractにあまりメリットを感じなかった	5	20.8%							
回答8 シンポジウム・ワークショップ・フォーラムのタイトルに略称が付いていたので、行ってみたいセッションを探す際にわかりやすく便利だと思った	6	25.0%							
回答9 シンポジウム・ワークショップ・フォーラムのタイトルに略称が付いていたことにはあまりメリットを感じなかった	7	29.2%							
回答10 その他	2	8.3%							
合計	54								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問12.年会の参加登録・演題登録システムおよび視聴サイト(AGRI SMILE社ONLINE CONF)や当日のトラブル対応などのオンラインサポート体制についてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 参加登録・演題登録は問題なく行うことができた	14	58.3%							
回答2 参加登録・演題登録時には操作に戸惑う点があった	1	4.2%							
回答3 視聴サイトは全体的にわかりやすく、使いやすかった	4	16.7%							
回答4 視聴サイトはわかりにくく、使いにくい点があった	10	41.7%							
回答5 視聴サイトがスマートフォン画面对応にもなったことは便利だと感じた	7	29.2%							
回答6 視聴サイトをスマートフォンで使う機会はあまりなかった	4	16.7%							
回答7 オンライン講演セッションで問題なく発表/視聴することができ、運営側のサポートは適切であったと思う	2	8.3%							
回答8 オンライン講演セッションで発表/視聴するまでのトラブル解決に困難を感じ、運営側のサポートが足りなかったと思う	0	0.0%							
回答9 その他	7	29.2%							
合計	49								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問13.本年会では昨年に続き、一般演題のタイトル情報まで入った詳細な(A5サイズ・厚さ1~2cmの)年会プログラム集冊子や年会アプリは作成しませんでした。また、会員の皆様にはプログラム集冊子に同封発送していた学会会報(年3回発行)の11月号も印刷版作成を見送っています。これらについてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 プログラム集冊子(詳細版)がなくても特に不便とは感じなかった	10	41.7%							
回答2 プログラム集冊子(詳細版)がないことに不便を感じた	7	29.2%							
回答3 アプリがなくても特に不便とは感じなかった	7	29.2%							
回答4 アプリがないことに不便を感じた	4	16.7%							
回答5 ポケットプログラム(日程表などの基本的な情報が記載されたプログラム小冊子)は便利だった	9	37.5%							
回答6 ガイドマップ(会場に設置されていた紙の折りたたみ式大判マップ)はよかった	2	8.3%							
回答7 会報の冊子版は今後すべてとりやめ、PDF版などの電子媒体またはメールニュース、学会HPやSNSの拡充などに変更してよいと思う	2	8.3%							
回答8 会報は、年会の演題投稿に関する詳細案内が載る夏の号(6月号)だけでも冊子版で送ってほしい	1	4.2%							
回答9 その他	4	16.7%							
合計	46								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問14.年会・学会のその他の講演に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 プレナリーレクチャー	2	8.3%							
回答2 展示会場内に特設講演会場があるレイアウト	12	50.0%							
回答3 ASCBやEMBOとの連携プログラム(ランチタイムのMBSJ-ASCB-EMBO Joint Workshop/MBSJ Special Program、シンポジウム「境界を越える細胞生物学研究 Cell biology across boundaries」、Poster Clinic by EMBO Pressなど)	1	4.2%							
回答4 幕張会場内での感染対策(国や自治体による最新のガイドラインに沿った対応+酒類提供時間帯を中心とした「感染対策対応チーム」の巡回によるマスク着用促進強化など)	5	20.8%							
回答5 キャリアパス委員会企画ランチタイムセミナー	1	4.2%							
回答6 研究倫理委員会企画ランチョンセミナー	4	16.7%							
回答7 高校生発表	7	29.2%							
回答8 学会誌Genes to Cellsカバーアート展示	5	20.8%							
回答9 サテライトシンポジウム(EMBO Laboratory Leadership Course and International Symposium for Female Researchers in Chromatin Biology 2022)	2	8.3%							
回答10 特になし	7	29.2%							
回答11 その他	2	8.3%							
合計	48								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問15.企業展示会等でよかったと思うものを選んでください <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 企業展示のデジタルスタンプラリー	3	12.5%							
回答2 出展者実演セミナー(展示会場での出展者によるショートプレゼンテーション)	4	16.7%							
回答3 企業テクニカルセミナー(展示会場内の特設会場でスポンサー企業が行ったショートセミナー)	7	29.2%							
回答4 企業協賛によるバイオテクノロジー(ランチョン)セミナー	9	37.5%							
回答5 どれにも参加しなかった	7	29.2%							
回答6 特になし	5	20.8%							
回答7 要望・その他	1	4.2%							
合計	36								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問16.年会の講演以外に関する取り組みについて、良かったと思うものを選んでください <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 Meet my Hero/Heroine(大学院生や博士研究員などが「憧れの先生」と直接話すことができるよう展示会場内に設けられた交流の場)	3	12.5%							
回答2 第45回日本分子生物学会年会公式テーマソング「逆襲の助教」(Negative Selection)	3	12.5%							
回答3 展示会場でのバイオリン・ピアノによる生演奏	4	16.7%							
回答4 フォトスポット	10	41.7%							
回答5 年会特別企画展示(展示会場内の一角に設けられていた申請書ギャラリー)	3	12.5%							
回答6 開催地とのタイアップ企画:利き酒コーナー&千葉物産展	10	41.7%							
回答7 開催地とのタイアップ企画:チーバくん(千葉県)	8	33.3%							
回答8 開催地とのタイアップ企画:バクハリくん(幕張メッセ)	0	0.0%							
回答9 MBSJ2022グッズ販売	3	12.5%							
回答10 例年より大きなサイズの参加章	1	4.2%							
回答11 特になし	8	33.3%							
回答12 その他	3	12.5%							
合計	56								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問17.年会参加登録費についてお聞きます(MBSJ2022の事前参加登録費:正会員15,000円、学生会員:3,000円、非会員[一般演題投稿なし]20,000円、[あり]30,000円、学部学生:無料) <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 この年会の内容であれば満足できる金額だと思う	5	20.8%							
回答2 この年会の内容であれば許容できる金額だと思う	10	41.7%							
回答3 この年会の内容であれば不満が残る	9	37.5%							
回答4 この年会の内容であれば「許容できる範囲」または「不満が残る」金額だが、「プラスちばキャンペーン」(千葉市内飲食店および宿泊施設で利用できる3,000円分のクーポンを500円で購入できる)が利用できたので、総合的には満足度が高かった	3	12.5%							
回答5 年会参加登録費は誰が負担していますか(本人の私費・所属機関の運営費・外部から獲得した研究費・詳細は不明だが所属の研究室負担で参加できる等)	11	45.8%							
回答6 その他	5	20.8%							
合計	43								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問18.分子生物学会の年会では毎年、公式旅行代理店による宿泊予約受付や、年会託児室の設置(設置費用:年会負担、利用料:一部利用者負担)を行っています。それらの利用状況などについてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 (年会HP経由または学会会報の案内を見て)年会公式旅行代理店での宿泊予約を利用した	3	12.5%							
回答2 年会公式旅行代理店以外で宿泊予約をした	8	33.3%							
回答3 宿泊をしなかった	13	54.2%							
回答4 年会会場に託児室が設置されていることを知っている	9	37.5%							
回答5 年会託児室を利用したことがある	2	8.3%							
回答6 年会会場に託児室が設置されていることを知らなかった	2	8.3%							
回答7 年会託児室は今後も設置し、利用料は今まで通り一部利用者負担とするのがよい	5	20.8%							
回答8 年会託児室は今後も設置し、利用料は全額年会(=有料の年会参加者全員)で負担するのがよい	4	16.7%							
回答9 育児中は、託児室が充実しているオンサイト年会よりオンラインまたはオンデマンド視聴できるセッションが充実している年会的のほうが、参加しようと思う	3	12.5%							
回答10 育児中は、オンラインまたはオンデマンド視聴できるセッションが充実している年会より託児室が充実しているオンサイト年会的のほうが、参加しようと思う	2	8.3%							
回答11 その他	4	16.7%							
合計	55								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問19.本年会の開催形式(単独開催・他学会共催形式による連携※)について
 ※本年会において生物物理学会の会員は分子生物学会会員と同じ資格・参加費で参加可能としました。また生物物理学会の方にも年会組織委員の就任を依頼し、年会の企画・運営に携わっていただきました。一部のシンポジウムは生物物理関連分野のテーマで行われています。

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 よかった	13	54.2%							
回答2 よくなかった	0	0.0%							
回答3 どちらでもない	11	45.8%							
回答4 その他	0	0.0%							
合計	24								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問20. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 オンサイト(現地)開催を基本とし、一部のプログラムをオンラインでもリアルタイム参加・視聴可とするのがよい	10	41.7%							
回答2 ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンサイトの比重が大きめのほうがよい	9	37.5%							
回答3 ハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とし、オンラインの比重を大きめにし、地方都市もオンサイト会場の選択肢に入れるのがよい	2	8.3%							
回答4 オンサイト開催期間+オンライン開催期間の併用形式とし、オンライン会期を増やすことで同時使用会場数・チャンネル数を双方抑え、地方都市もオンサイト会場の選択肢に入れるのがよい	1	4.2%							
回答5 完全オンサイト開催とし、予算は感染防止対策の強化・プログラム充実等に注力するのがよい	1	4.2%							
回答6 完全オンライン開催とし、予算はコンテンツ充実やセキュリティ強化等に注力するのがよい	1	4.2%							
回答7 後日一定期間視聴できるオンデマンド配信があるなら年会は完全にオンサイトでよい	6	25.0%							
回答8 その他	3	12.5%							
合計	33								

※割合は回答者数を母数にして算出しています

質問21. 年会をオンライン開催またはハイブリッド開催(オンサイト+オンライン)とする場合、「未発表データを前に議論したいが、発表資料を不正に複写・撮影等されることへの懸念がある」との声が聞かれます。講演の事後配信や一般演題のポスターデータ掲示についてお聞きます <複数回答可>

項目	件数	割合	0%	20%	40%	60%	80%	100%	
回答1 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可しない	7	29.2%							
回答2 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信は許可するが、未発表データを用いた発表はしない	12	50.0%							
回答3 シンポジウム・ワークショップの演者になった場合、発表演題の事後配信を許可し、未発表データを用いた発表はある程度許容できる	5	20.8%							
回答4 一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっているならば、PDFをアップロードすることに抵抗はない、あるいは許容できる	8	33.3%							
回答5 一般演題のポスターは、システム上ダウンロードできないようになっていたとしても、もし発表者が選択できるならオンサイトのみで発表したい	9	37.5%							
回答6 その他	5	20.8%							
合計	46								

※割合は回答者数を母数にして算出しています